表1 「表御錠口」にかかわる記述

No.	藩主	所在	年月日	出来事	日録の記述
1	斉承	江戸	1829（文政12）5.17	浅姫、斉承へ蕎麦切を進上	八時過ゟ表御〆切姫君様被為入候、但**表御錠口**并御廊下口、御小道具役所前口、都合三ケ所御〆り付候事
2		江戸	6.27	越後守［津山藩主松平斉孝］来訪	越後守様被為入、御居間へ御通被遊、御熨斗・御たばこ盆・御茶差上、夫ゟ奥御入りニ相成（中略）表御玄関迄御見送可被遊候処厳敷御断ニ付、**表御錠口**内迄御送被遊候
3		江戸	9. 3	内府[将軍継嗣徳川家慶]の門前通行	（斉承）御服紗御上下被為召、小書院二之間御敷居ゟ二畳目壁を御後江東御正面御着座被遊、通御相済候節(中略)、**表御錠口**御通行被遊候
4		江戸	9. 9	重陽祝儀、於儀丸御目見	**表御錠口**ゟ被為出（本文引用参照）
5		福井	1830（天保元）5.24	人払い中、小姓らは**表御錠口**外で控え居るよう指示（5.21着城）	右御人払御用中、御小姓・御近習番共**表御錠口**外ニ扣居候様御用人指図有之、御膳番・奥之番詰所ハ〆切ニいたし置候
6		江戸	1835（天保6）閏7.13	逝去後、天徳寺僧来訪、読経	都合四人今日ハ長炉之間へ罷出候故、**表御錠口**内ゟ御近習番致案内候
7	斉善	江戸	9.23	幕府役人・医師の来訪、屋敷内検分	最初表玄関ゟ表向一通り見分、夫ゟ**表御錠口**ゟ新御座之間・御居間等不残見分相済
8		江戸	10.3	小野桃仙院［幕府医師］来訪	小野桃仙院老被出、御物見ニ被為入候ニ付直ニ御物見へ被出御伺有之、案内毎之通、**表御錠口**ゟ被通、御用人也
9		江戸	1836（天保7）1.6	年頭祝儀（出入町人）	**表御錠口**ゟ時計之間廊下通り長炉之間御通り掛、年頭御礼被為受　　御出入町人共
10		江戸	2.16	松平大隅守［薩摩藩主島津斉興］・九鬼長門守［摂津三田藩主九鬼隆国］・松平日向守［糸魚川藩主松平直春］来訪	御三方様御退出之節者、**表御錠**口内迄御見送被遊候
11	慶永	江戸	1838（天保9）11.23	慶永、常盤橋上屋敷へ引移、家中御目見	**表御錠口**外代り、同所［大廊下］仕切、熊谷熊之助［側向頭取熊谷小兵衛倅］、席を隔表御小姓、右御立掛御目見
12		江戸	1840（天保11）－.－	武術稽古の際、稽古所まで用人が慶永を先導	御稽古之節、御先立御用人ニ而被致候事 但　天保十一子年迄**表御錠口**内ニ付
13		江戸	1840（天保11）3.15	松栄院附用人等、年頭祝儀	於御座之間御附御用人水谷勝三郎［松栄院附］殿・松高斧次郎［松栄院附］殿、年頭御祝儀（中略）、畢而**表御錠口内**へ御侍並居御用人披露、御会釈等昨年之通
14		江戸	8.28	坂上池院［幕府医師］の来訪	右夕方被出、於御座之間御逢被遊（中略）但今朝被罷出候へハ一同御対面所ニ而御逢可被遊処、夕刻被出候故如此、且又**表御錠口**内故御召服御継上下
15		江戸	9.25	慶永、具足御召初めの儀式	**表御錠口**外 小兵衛倅　熊谷熊之助
16		江戸	1841（天保12）2.28	江戸城登城	五時過御供揃為御機嫌御伺、御本丸へ御登城、御帰殿九半時壱寸前、但式日ニ付御出殿之節**表御錠口**・表御玄関、御帰殿西御門中ノ口、**表御錠口**、但御出殿之節諸士御礼無之
17		江戸	6.15	慶永、袖留の儀式	**表御錠口**外 熊谷熊之助
18		江戸	9.23	［田安家・慶永父］徳川斉匡の来訪	今日一位様御沙汰ニ而官医小川竜仙院老、岡了節老、御住居ゟ之御沙汰之由ニ而、野間玄琢老（御断）・土岐長元老被為召、終日御側へ被罷出、但大奥掛合之上**表御錠口**往来被致、御手前御医師致案内候、尤田安御医師飯島道仙・吉田元瑞も被為召御側へ罷出候、大奥出入案内右同前、且又官医衆休息所ハ表ニ拵之
19		江戸	10.4	松栄院［浅姫］、御座間に入られ同座にて席画御覧	御座之間御囲御〆切ニ而、昼時過松栄院様被為入、御同座ニ而狩野探淵・狩野真笑（御断ニ而名代息）・春笑被為召御席画被仰付（中略、御附用人の）休息所**表御錠口**内、屏風仕切御菓子例之通二分ケニ而差出之
20		江戸	11.16	松栄院［浅姫］、御座間に入られ同座にて軍談聴聞	表御座之間御囲ニ相成、軍談師[伊東]燕凌被為召、松栄院様御同座ニ而御聴被遊、御附御用人初例之通聴聞被罷出候、但聴聞所御囲出来ニ付、以前之通御用人初御側向〈継肩衣｜掛之〉・当番御医師等聴聞罷出候、御附御用人初休息所**表御錠口**内二仕切屏風囲・茶煙草盆例之通、是迄御居間御〆切之処、以来表御座之間ニ相成
21		江戸	1844（天保15）4.28	松平佐渡守［出雲広瀬藩主松平直寛］・同大助、松平日向守［糸魚川藩主松平直春］暇乞いに来訪	思召ニ而於御居間御対顔被遊（中略）御三方様御刀ハ**表御錠口**ニ而御小姓御受取申上、御銘々様御後ニ指置候
22		福井	7.5	暁天の出殿、夜分の帰殿等の節、別段ボンボリ点灯の廃止（倹約）	以来奥表共右御ボンボリ相止、常之御灯火之儘ニ而差置候様被仰出、**表御錠口**内之儀ハ奥之番へ申通、**表御錠口**外之儀ハ御用人へ申通候、尤御式事等有之節ハ格別之筈ニ候事

注）「少傅日録抄」松平文庫、A0143-01101～01111による。

表2　斉承代の表〆切				
No.	所在	年月日	出来事	日録の記述
1	福井	1827（文政10）6.9	□夕食御〆切	亥六月九日大奥女中着、十日ゟ御三度御膳御〆切ニ相成
2	福井	8.24	□御〆切（8.26、10.15）	夜九時過暫御〆切有之、九半時過御寝
3	江戸	1829（文政12）5.17	浅姫、斉承へ蕎麦切を進上	八時過ゟ**表御〆切**姫君様被為入候（**表1**（1）と同じ）
4	江戸	5.28	□浅姫、着帯儀式、江戸城本丸・西の丸より女使あり	姫君様御着帯ニ付、両御丸ゟ女使有之、大奥向当時御手狭ニ付表御居間御〆切、殿様・菊姫様上使被為受、御拝領物有之
5	江戸	6.6	浅姫、斉承へ蕎麦を進上	姫君様ゟ　蕎麦八寸五重組　**表御〆切**ニ而被為入候二付御側之御慰被進之
6	江戸	6.15	浅姫、斉承へ鮮鯛進上	御同所様[浅姫]ゟ　鮮鯛二枚　〈度々**表御〆切**ニ而｜被為入候ニ付〉〈御側向頭取始｜両部やへ被下〉
7	江戸	7.7	□端午の御内書拝見	御登城御帰殿掛直々鶴之間御着座、端午之御内書御拝見御留守居へ御手のし被下、畢而姫君様御始御方々様御使被為請、御直々各御手のし被下（中略）、大奥御対顔相済、表御居間御〆切御方々様御対顔、御目録為御取替等有之由
8	江戸	7.15	□中元御祝、夕食	中元御祝御膳、今日御三度之節御祝被遊、蓮飯も御祝有之候由、但今晩ハ表御居間御〆切奥御膳也
9	江戸	8.3	□於義丸[斉承子]、御七夜御祝儀、大奥で江戸城本丸・西の丸からの女使に面会	御本丸上使水野出羽守[水野忠成]殿、御住居へ御勤相済、表通り殿様・若殿様へ上使御勤、御拝領物有之（中略）、両御丸ゟ之女上使於大奥御請可被遊候処、御手狭ニ付表御居間御〆切ニ而御受被遊候
10	江戸	8.5	□御七夜祝儀	御七夜御祝儀ニ付、表御居間御〆切ニ而御方々様御目録為御取替有之
11	江戸	9.6	□夕食（9.7）	御三度御膳ハ何レ御〆切ニ而召上候様、小兵衛ゟ申上候処御聞受被遊候(9.7)今晩ゟ御三度御前御〆切ニ相成
12	江戸	9.27	□比丘尼らと面会	今日、寿栄始御比丘尼被為召、御居間暫御〆切相成、御方々様被為入、御目見被仰付、御祝儀御目六被下
13	江戸	10.2	□玄猪祝儀	玄猪御祝儀、詰合切御座之間代り鶴之間御着座御祝相済、直々御住居へ被為入御祝有之候由、相済表御居間御〆切ニ而御方々様御同座御祝有之候由
14	江戸	12.6	□於義丸の御色直祝儀、大奥年寄はじめ女中一統の祝儀を受ける	姫君様御対顔御入其節若殿様御対顔被遊、於大奥今日之御祝儀［於義丸色直祝儀］御式有之、相済表へ被為入御〆切ニ而御年寄始一統御祝儀、御請被遊候
15	江戸	12.9	□於義丸の御色直・御箸揃祝儀、将軍等の女使[飛鳥井・山の井・花町・局]の祝儀を受ける	若殿様御色直御箸揃御祝儀ニ付、両御丸御五御所様ゟ女使を以御拝領物被遊候（中略）大奥向御手狭ニ付、表御居間御〆切ニ而殿様・若殿様・菊姫様[斉承・浅姫娘]御分被為請候
16	江戸	12.28	□歳暮祝儀	歳暮御祝儀（中略）、畢而大奥へ被為入御式有之、表へ被為入御居間御〆切、御方々様被為入御目録為御取替有之
17	江戸	12.晦日	□大奥年寄3人へ歳暮祝儀目録下さる	金五百疋ツヽ　御年寄三人江 右例年之通御居間御〆切、為歳暮御祝儀御手目録被下之、御中老御取合有之
18	江戸	1830(天保元)1.1	□元日、於義丸初め対顔	御拝領之御鏡餅御頂戴奉文御覧相済、直ニ大奥被為入御対顔、夫ゟ御居間御〆切ニ而若殿様御始御方々様被為入御対顔、御目六為御取替有之
19	江戸	1.3	□三献の御祝	御居間御〆切ニ而、御方々様御揃被遊三献之御祝有之
20	江戸	1.7	□若菜祝儀	(登城、帰殿後)御座之間代り鶴之間御着座、若菜御祝儀、姫君様御始御方々様ゟ御使被為請（中略）夫ゟ直ニ大奥被為入御対顔、夫ゟ表御居間御〆切御方々様御対顔、其外御礼等被受候由
21	江戸	1.11	□節分儀式	節分ニ付暮時迄御座之間代り鶴之間へ御着座、御例之通豆頂戴御式有之、相済表御居間御〆切ニ而大奥御式有之
22	江戸	1.24	□御〆切（2.15、2.22、3.16、3.晦、閏3.14、4.25、4.28）	御夜詰五半時引、御〆切初而也
23	江戸	3.28	津山藩女使藤田と面会（贈答・返礼）	鍛冶橋［津山藩上屋敷］ゟ為御使藤田罷出候ニ付**表御〆切**ニ而御逢被遊
24	福井	5.23	□大奥女中、御目見	大奥女中袖野方始到着ニ付、御小座敷御〆切ニ相成、御目見被仰付、畢而御錠口迄被為入、御広式御用達始御立掛り御目見被仰付
25	福井	5.24	夕食定式	御三度御膳、**表御〆切**ニ而被召上候、以来定式右之通被仰出候事
26	福井	8.15	□大奥にて謙五郎[善道・斉承弟]と昼食	御二度御膳、謙五郎様ゟ被進之御膳御祝被遊御膳後被進之、御赤飯・御吸物・御酒・御硯蓋・御鉢肴・御菓子等ハ御小座敷御〆切、大奥ニ而被召上候
27	福井	9.18	□謙五郎と面会	謙五郎様為御歓[邦之助誕生]被為入、御上下御〆切中御対顔有之
28	福井	9.18	貞照院［斉承母］と対顔	此節大奥御手狭ニ付、**表御〆切**ニ而御入有之○貞照院様八半時御供揃ニ而被為入、於大奥御出生様[邦之助]御対顔有之、夫ゟ**表御〆切**ニ而御対顔有之、七半時御帰館○御三度御膳定式御〆切ニ而被召上候得共、此節大奥御人少ニ而指支候ニ付御七夜中表御膳被仰出候
29	福井	10.3	玄猪儀式	［表向にて玄猪祝儀後］**表御〆切**ニ而大奥御式有之、其節謙五郎様ニも被為入御祝被遊候
30	福井	10.15	謙五郎、御礼来訪	謙五郎様為当日御礼被為入、**表御〆切**中御対顔有之
31	福井	10.20	□御〆切にて夕食	今晩ゟ御三度御膳御〆切ニ而被召上候
32	福井	10.22	□御〆切にて御寝	今晩ゟ御〆切御寝被仰出候

33	福井	1831(天保2) 1.15	謙五郎と年始盃事を行う	謙五郎様被為入、於御小座敷当日御礼被仰上、**表御〆切**ニ而年始御盃事有之
34	福井	2.27	□貞松院・謙五郎とともに打毬を御覧になる	[交御肴一折]右、今日貞照院様御出ニ付御同所様ゟ被進之、今日二ノ丸御馬場ニ而御打毬被遊御馬見所御〆切、謙五郎様ニも被為入御三方様御一所ニ御覧
35	福井	3.10	□菩提所住持招待（席画・打毬）	御袴ニ而被為入暫御咄有之、御酒御進被遊、御〆切被仰出、御〆切中御給仕御医師、大奥ニ而御酒相勧相済、大奥ニ而付立御前へも差上之
36	江戸	4.9	夕食	姫君様少々御風気ニ而、御三度御同座御膳御断ニ付、**表御〆切**ニ而被召上候
37	江戸	4.13	江戸到着の大奥女中一統に御目見（参勤交代）	大奥袖野始今日到着、**表御〆切**御袴被為召御目見被仰付候、但於道中七日斗逗留有之
38	江戸	4.24	浅姫とともに昨日江戸城登城で拝領した品々をご覧になる	姫君様**表御〆切**ニ而被為入、昨日御拝領之御品共、於下溜之間御覧被遊候
39	江戸	8.5	□箏姫［治好娘・津山斉孝正室］からの女使田村と面会	箏姫様ゟ田村御差出被成候付左之通被進之〈但、御居間御〆切ニ而｜田村御逢〉
40	江戸	12.22	□松平斉民［津山藩主］来訪、御住居で浅姫と内々に面会、御居間で謹姫［斉承妹］に面会	夫ゟ御居間へ御通り被成其節御稽古所御時計所迄御出迎被遊（中略）、御住居へ御通り被成、御内々姫君様御対顔被成候由、相済再御居間へ被為入、此処ニ而暫御〆切ニ相成、謹姫様へ被為入、御対顔被遊
41	江戸	12.28	大奥年寄3人へ目録を下さる（歳暮）	本文2（2）参照
42	江戸	1832（天保3） 3.27	□浅姫・謹姫、表御居間庭の桜を拝見	此節御居間御庭之桜盛りニ付、夕方御〆切ニ而姫君様被為入、御吸物・御酒・御菓子・御取肴等被進、御次通り茶飯・田楽御酒被下〈六十一人前ナリ｜〉、謹姫様ニも被為入候由
43	江戸	4.5	□浅姫、馬見所にて打毬御覧	御道筋御居間御〆切ニ而御庭通り、御馬見所へ被為入、御囲等之儀前以飯田作左衛門[用人]并御広式御用人ゟ谷中惣左衛門[浅姫附用人]殿掛合談之上出来、委細画図面有之、七半時前済
44	江戸	4.10	□貞照院附年寄と面会	貞照院様御年寄梶尾罷出、御〆切ニ而御逢被遊候
45	福井	5.9	□着城、昼食	九半時弐寸五分、益御機嫌能御着城被遊候〇御式事御例之通、御庭［四社拝礼］相済、御小座敷御〆切ニ相成御二度御膳被召上候
46	福井	1833(天保4) 1.3	□謡初め	［謡初]謙五郎様最初被為入候節、御小座敷ニ而御対顔、直ニ御同道ニ而御覧所へ被為入、御囃子相済再御小座敷へ被為入御礼被仰上候、 一、大奥向拝見ハ奥之番詰所[表方、錠口のすぐ外]〆切拝見所ニ相成候、都而御間囲其際取扱委細奥番記録ニ有之
47	福井	2.29	□菩提所住持招待（席画）	御程合ニ而御袴ニ而被為入御〆切ニ相成申候、此後御手続卯春［天保2年］之通略之
48	江戸	4.1	□江戸到着の大奥年寄に御目見（参勤交代）	今夕到着　　大奥御年寄　袖野始 右御居間御〆切御袴ニ而御目見被仰付候
49	江戸	5.5	浅姫、端午の幟御覧、斉承同道	姫君様御幟為御覧、中之口迄被為入、如例**表御〆切**、殿様ニも御同道ニ而被為入候
50	江戸	6.21	□松平斉民［津山藩主］来訪、御住居で浅姫と内々に面会、御居間で於義丸・謹姫に面会	三河守様九半時之御供揃ニ而八時被為入、最初小書院へ御通り夫ゟ御居間へ御通り、其節御稽古御遣場御時計下例之所迄御出迎被遊（中略）、御住居ゟ御案内之上御通り被遊、御内々姫君様御対顔被遊候由、相済再御居間へ被為入、此処ニ而暫時御〆切ニ相成、若殿様・謹姫様御対顔有之
51	江戸	7.12	□御〆切御寝	夜、明日上野惣御霊屋并最樹院様御霊前へ御参詣被遊候へとも、夕方九半時過之御供揃ニ付、今晩御〆切御寝被遊候
52	江戸	9.25	□徳川斉位来訪、大奥で於義丸・謹姫に面会、囃子御覧	［一橋徳川斉位]大奥被為入、御上段御着座御挨拶被遊、若殿様・謹姫様御対顔相済、被進物之御披露有之相済御吸物御・酒被進、尤殿様御相伴被遊候、相済民部卿様御住居へ御通り姫君様御対顔（中略）御襖引之〈御用人｜取斗〉御居間御〆切ニ相成、但溜り之間ゟ〆切、**御錠口仮**稽古所御膳番詰所上之所也、直々御覧所始致御囲御囃子中仮御錠口十畳之間也
53	福井	1834(天保5) 5.28	□貞照院・楷五郎に吸物・酒・菓子を進ぜらる	貞照院様・楷五郎［善道］様被為入御、同道ニ而大奥被為入、直ニ御小座敷御〆切ニ成御吸物・御酒・御菓子被進、七時御両所様共御帰館
54	福井	12.28	□大奥年寄へ金100疋下さる	金五百疋　　御年寄　岡野方 右例年之通、御側御用人取扱、御〆切ニ而御直々被下之、江戸表御年寄へハ弐百疋ツヽ被下候由
55	福井	1835(天保6) 3.4	□菩提所住持招待（打毬・席画）	御吸物出御酒御勧、御〆切被仰出、大奥ニ而御酒・御菓子・御細工物等例之通頂戴有之
56	江戸	4.7	□大奥女中、御目見（4.3於義丸死去）	大奥女中奥野方始、七時過着表御居間〆切ニ而御目見被仰付候
57	江戸	閏7.2	□重体の斉承に、浅姫が面会	七時過御〆切ニ而姫君様被為入御対顔被遊候、暮時過ニ而ハ段々御大切之御容体ニ被為及、此節北御入側御簾屏風仕切ニ而姫君様被為入候
58	江戸	閏7.13	□天徳寺住持御悔に来訪、御髪剃り	此節御〆切中ニ付御側一統詰合切御稽古所両側相詰 白三方　二ツ　表物ニ而出来其外入用之品天徳寺持参 御髪剃 右役僧附添持出之、右御〆切大奥ニ而被指上

注1）「少傅日録抄」松平文庫、A0143-01101～01103による。
2）「表御〆切」と明示されていないものには、□を付した。
3）〈 〉内は割書で、｜は改行を表す。

表3　斉善代の表〆切				
No.	所在	年月日	出来事	日録の記述
59	江戸	1835(天保6) 9.25	常盤橋上屋敷へ引移り、大奥御寝	夜五半時**表御〆切**、大奥御寝〈以後如此｜〉
60	江戸	11.20	□大奥にて入浴	八半時、御〆切大奥ニ而御湯被為召
61	江戸	11.28	□御座の間の具足類を大奥年寄はじめ女中たちが拝見	御持込御新調之御具足・御太刀三振、今日御本丸ゟ相廻り候ニ付御座之間御飾付御覧被遊、引続同所御〆切ニ而大奥御年寄初拝見有之
62	江戸	12.晦	□大奥年寄4人へ目録を下さる（歳暮）	暮時、例年之通詰合切歳暮之御祝儀申上之、御附衆ハ□之間北之方御敷居際ゟ一列着座、[熊谷]小兵衛始一同二類程ニ並居、御祝儀申上候旨小兵衛ゟ言上之 御目録　御年寄　浜尾殿始四人へ 右例年之通被下之、御〆切御側御用人取計
63	江戸	1836(天保7) 8.10	松栄院[浅姫] に面会	松栄院様、**表御〆切**ニ而御対顔被為入〈御引中｜毎々〉
64	江戸	12.28	□大奥年寄4人へ目録を下さる（歳暮）	例年之通御目六被下之〈御〆切、雨森伝左衛門取計｜〉御年寄衆　浜尾始四人へ
65	江戸	1837(天保8) 9.9	□大奥年寄2人へ任官祝儀を下さる	白銀拾五枚　浜尾殿へ 同　五枚　藤田殿へ 右今般為御任官御祝儀、御側御用人取扱、御居間御〆切於御前被下之
66	江戸	9.28	□松栄院附女中に面会	松栄院様ゟ　御小重詰 右御使染村殿を以殿様・謹姫様へ被進之、御袴被為召御〆切ニ而御逢被遊候
67	江戸	10.7	□大奥の玄猪儀式	玄猪ニ付七半時揃御座之間御着座（中略）、御居間御〆切、大奥御式有之候旨
68	江戸	12.晦	□大奥年寄5人へ目録を下さる（歳暮）	年寄浜尾殿始五人江例年之通御目録、御〆切ニ而大宮藤馬取計被下之
69	江戸	1838(天保9) 2.13	□謹姫に面会	夕刻、御居間御〆切ニ而謹姫様御対顔被為入
70	江戸	2.19	□御囃子を幕府医師3人が御覧、謹姫表御居間に同座	御囃子ニ付、坂上池院老・津軽玄意老・田中俊哲老被為召、御賄例之通（中略）、謹姫様御囃子御覧被為入ニ付被進之、御居間御〆切ニ相成、殿様御同座御相伴被遊候
71	江戸	2.21	□謹姫に送別の盃事を行う	四時前、御居間御〆切、謹姫様被為入、御見立之盃事被為在候
72	江戸	3.19	□大奥女中へ小袖・銀下付（謹姫婚姻出精）	右同断[謹姫婚姻ニ付出精] 御意有之、御側御用人御取合、右相済御〆切ニ而 〈御小袖｜銀五枚〉　岡野方 同断　滝浦方
73	江戸	3.23	□松栄院附女中、表御居間庭の桜を拝見、面会	御住居ゟ浜川殿始六人被出、御庭之桜拝見被致候由、御居間御〆切ニ而御袴被為召御逢被遊
74	(福井)	7.28	□斉善（遺体・棺）を大奥女中、拝礼	今夕御納棺ニ付御手続、御沐浴前御〆切ニ相成大奥女中自拝有之（中略、納棺後）、御〆切ニ相成大奥女中自拝有之
75	(福井)	8.9	□附衆・側向諸役人、初七日の夜食を頂戴	今日御正統御初七日御逮夜ニ付、御附衆始奥表台子向両手伝迄御夜食頂戴被仰付、御〆切中ニ而孔雀之間ニ而御附衆始御側向頭取・御医師・御小姓・御近習番一統頂戴之
76	(福井)	8.24	□幕府医師の往診、内々御棺拝礼	八時過、玄琢[幕府医師、野間玄琢]老被出、毎々通韃靼之間被通夫ゟ大奥被通御年寄中へ逢被申、御〆切中御年寄取計、玄琢老内々御棺拝被改候由
77	(福井)	8.24	□運上寺僧・雲竜院位牌持参、読経、家老・側向諸役人拝礼	本多内蔵助方始御家老中・御側御用人・御用人・御側向頭取御医師御小姓御近習番御棺拝有之、相済御〆切ニ相成、右御〆切中御霊具下之（中略） 一、是迄之通夜五時ゟ御〆切、九時ゟ明朝五時迄御表
78	(福井)	8.25	□楷五郎[斉承弟、善道]、御棺拝礼	一、今朝五時ゟ四時迄御〆切、四時ゟ八時迄表、八時ゟ六時迄御〆切是迄之通 （中略） 一、八時過楷五郎様被為入、御棺拝被遊候、但御〆切中故梶野取計
79	(福井)	9.12	□楷五郎、御棺拝礼	夕方楷五郎様被為入、御〆切中御棺拝被遊候

注1）「少傅日録抄」松平文庫、A0143-01104～01105による。
2）「表御〆切」と明示されていないものには、□を付した。
3）〈 〉内は割書で、｜は改行を表す。

表4　慶永代（婚姻前）の表〆切				
No.	所在	年月日	出来事	日録の記述
80	江戸	1838（天保9） 11.23	常盤橋上屋敷へ引移、家中・大奥向御目見	表御座之間代り御居間江御着座被遊、御家老御長蛇被差上之、相済御〆切大奥ニ相成、暫御休息被遊表ニ相成（中略）相済御〆切ニ相成、大奥向御目見有之候由(中略) 一、今夜**表御〆切**大奥ニ而四時御寝被遊候
81	江戸	12. 28	□大奥年寄3人へ目録を下さる（歳暮）	御手目録御肴一種・金五百疋ツヽ　　御手前御年寄三人江 右例之通御側御用人取扱、御〆切ニ而被下之
82	江戸	1839（天保10） 1.5	□涼晴院[前津山藩主正室・筝姫]・謹姫［福山藩主阿部正弘正室］からの女使に面会（年頭）	涼晴院様・謹姫様ゟ年頭女使被進候ニ付、御休息御〆切、御熨斗目御上下御飾付御袴斗ニ而御逢被遊、御手のし被下候由
83	江戸	3.13	謹姫・阿部正弘来訪	謹姫様五時之御供揃ニ而被為入、**表御〆切**ニ而御盃事被為在候由、伊勢守様四時之御供揃ニ而被為入、御下段ニ而御対顔、御熨斗・御たはこ盆・御茶差上、此処御〆切ニ相成、夫ゟ銅御殿へ被為入、伊勢守様・謹姫様御同座ニ而御膳被召上
84	江戸	4.5	□松栄院［浅姫］、表御居間で同座にて夕膳召し上る	表御居間御〆切ニ而御移徙後松栄院様初而被為入、御三度御膳、御居間御同座ニ而被召上、夜五半時前御住居へ御帰り被為入候
85	江戸	9.8	□比丘尼3人に面会	一昨日御国ゟ帰着之由被差上之、御〆切ニ而御逢有之 柿一籠・白玉糖一箱　　本立院・顕示院・法性院
86	江戸	10.29	松栄院、［表御座間に］入らせらる	今日八時ゟ松栄院様**表御〆切**ニ而被為入、夜五時過御〆り解
87	江戸	12.3	□表向新御普請御覧になる、松栄院も内々に御覧	夕方新御普請御〆切ニ相成、大奥ニ而殿様被為入御覧被遊、其節松栄院様も御内々被為入候由
88	江戸	12.5	□［新御屋形へ移徙］到来の御肴頂戴、夜分松栄院も入らる	夕方御居間御〆切ニ而御到来之御肴頂戴被仰付候由、夜分ハ松栄院様ニも被為入、五半時前御住居へ御帰被為入候
89	江戸	12.28	□大奥年寄3人へ目録を下さる（歳暮）	御肴一種　金五百疋ツヽ　　御年寄三人江 右例之通御居間御〆切ニ而御側御用人取扱、御手目録被下之
90	江戸	1840(天保11) 春頃	夕膳は大奥にて召し上がるのが定例	天保十一庚子年春頃御平生御常則大抵左之通（中略） 一、七半時過御三度御膳被仰付、定式**表御〆切**大奥ニ而召上り候事、但御〆切ニ相成候得ハ、御前詰之御小姓・御次詰之御近習番御錠口外ニ相詰、御手長御次詰壱人ニ而勤之
91	江戸	3.19	□松栄院、表御居間で同座にて夕膳召し上る	八半時前、御居間御〆切ニ而松栄院様被為入、夜分六半時過御住居へ御帰り被為入、御三度御膳御同座ニ而被召上候、大奥ニ而田楽出来候由、倉橋殿初へ御夜食・御酒・御吸物・御くハし等被下之
92	江戸	5.29	□松栄院、御居間で同座にて軍談お聴きになる、松栄院附用人も同座	(本文引用参照)
93	江戸	11.16	□有卦入りで到来した品々の仕分けを大奥が取計る	御有卦入ニ付一位様［慶永父、徳川斉匡］・右衛門督[徳川慶頼]様ゟ被進御台之物初夫々御到来之御品々、御〆切中大奥ニ而仕分取計有之、御取囃ニ相成、大奥・表并御医師、御国罷在候御小姓五人迄頂戴被仰付候
94	江戸	1841(天保12) 10.4	□松栄院、御座間に入られ、同座にて席画御覧、松栄院附用人・側向役人同座	（表2の19に同じ）御座之間御囲御〆切ニ而、昼時過松栄院様被為入
95	江戸	11.16	□松栄院、御座間に入られ、軍談聴聞、松栄院附用人・側向役人同座	（表2の20に同じ）是迄御居間御〆切之処、以来表御座之間ニ相成
96	江戸	12.3	□表御座間で軍談	御座之間御〆切［伊東]燕凌罷出、去月十六日之通、今日ゟ後風土記申上候
97	江戸	12.22	□表御座間で軍談、松栄院聴聞	御座之間御〆切燕凌如例、尤松高[松栄院附用人、松高斧次郎]殿初休息所へ薄皮餅二夕分ニ而差出之 松栄院様へ　六寸御小重〈干くハし｜生くハし〉当年軍談御納ニ付被進之 大鉢盛〈うす皮｜まんちう〉同断ニ付御側御慰被進之
98	江戸	12.25	□松栄院附老女衆等へ贈物を下さる	御直々御贈物有之　御居間御〆切ニて被遣之 御住居　老女衆始
99	福井	1843(天保14) 8.15	□夕食（月見）	御月見ニ付大奥ゟ献上物ニ不及段申通候 一、御月見ニ付御三度御膳前御〆切ニ而、御祝物御先例之通
100	福井	9.1	□御泉水屋敷へ入られ、近接する楷五郎住所で面会（見舞）	御供揃御泉水屋敷へ被為入、御裏通り楷五郎様御住所へ為御見廻被為入候、（中略、楷五郎様御住所で）御休息御〆切ニ而楷五郎様へ御対顔被遊
101	福井	閏9.14	□海岸巡覧（閏9/14～9/22）	御留守中御錠口〆切候事、奥御坊主居残り四人之内二人ツヽ当番勤之、御茶方居残り壱人ニ相成候ニ付御道具役森久三へ御留守中助被仰付候事
102	福井	12.28	□歳暮祝儀、大奥年寄へ目録下さる	御座之間御着座〈御褥指上｜之〉御家老御側御用人歳暮之御祝儀申上、銘々御手のし被下之（中略）、相済夫ゟ御〆切 御肴料　五百疋　御内証出　　御年寄　歌島方 右御手目録ニ而被下之
103	福井	1844(弘化元) 1.2	□年頭祝儀、夕膳	［書初め］相済三献之御祝有之、御引続御三度御祝御膳御〆切ニ而御祝被遊候
104	江戸	2.6	以後、松栄院拝領の品々等を大奥にて年寄中に披露することに決まる	松栄院様御伝ニ而御拝領被遊候御品、或ハ暑中寒中御伽坊主衆御住居へ被遣候節御拝領被遊候類之御品共、御住居御別殿ニ相成候事故、以来別段御上下被為召**表御〆切**ニ相成、大奥ニ而御年寄中御披露申上候筈相究ル

105	江戸	3.19	□霊岸島中屋敷で貞照院［斉承母］に面会	貞照院様へ御対顔被遊候ニ付、大奥女中御年寄初海手御茶屋［霊岸島中屋敷］へ罷越居、御案内申上一先御茶屋へ貞照院様被為入、御程合ニ而紅葉之間御〆切ニ相成、御対顔被遊候
106	江戸	4.9	□松栄院附女中7人に面会、乗馬拝見仰付る	右女中［松栄院附女中］被為召候ニ付、御座之間御〆切ニ相成御継上下被為召御逢有之（中略）、夫ゟ表ニ相成御馬見所御囲出来御馬御支度宜段申上有之、御馬見所上之御間へ表ニ而被為入、同御二ノ間御簾囲ニ相成倉橋殿初被罷出、御乗馬御次馬御馬方不残へ被仰付拝見被仰付候
107	江戸	4.29	□発駕前儀式	謹姫様・貞照院様御使被為受、表ニ相成御旅服被為召、再御〆切ニ而大奥一統御目見御受被遊、夫ゟ表御式ニ相成候事
108	福井	6.27	□慶永出殿後に大奥女中、土居仏殿拝礼	御参詣御出殿後、大奥女中御年寄始土居御仏殿拝礼被致度旨願ニ付入御聴、御出殿後直ニ大奥切之御〆切ニ相成
109	福井	7.8	□御膳表仕立・御膳取扱の省略	此度御趣意ニ付御膳表ニ而御仕立ニ相成、奥へ廻し**上之御錠口**ゟ御膳番受取差上候事 　但、奥御〆切御膳之節ハ尤女中切ニ而取扱候事
110	福井	7.22	□御膳表仕立・御膳取扱の手順	此度御趣意ニ付御膳大奥廻しニ相成候ニ付、今日御二度御膳ゟ御仕立表ニ而御料理人致し、**下之御錠口**ゟ大奥へ相廻し大奥ニ而御盤立有之、御膳番**上之御錠口**ゟ受取之差上候事 （中略） 一、御〆切御膳之節大奥ゟ御支度宜段申出候へハ其段御膳番ゟ申上、御都合次第御〆切被仰出候事 　　但御近習番御手長入不申、大奥ゟ直ニ差上候事
111	福井	8.15	□夕食後月見祝儀	御三度御膳之節御月見ニ付御祝之御汁・団子代り御長蛇御膳番差上之、此御祝物御近例大奥ニ而差上候故、翌巳年ゟ大奥ニ而上候様ニ成、直ニ御左之方へ飾付之、前条朱書可見合引続御締切ニ相成
112	福井	8.17	□夕食後灸治	御三度御膳後御〆切中、当番御匙医師岩佐玄珪・同御針医師勝沢一順被為召御肩背へ御上点被仰付
113	福井	10.14	□目付用談の節、側向諸役人は、御次の間に控える	［13日、追々寒気ニ相成候ニ付御休息所南御入側ニ御囲出来］昨日ゟ南御入側ニ被為入候ニ付、御側御用人へ談之上左之通両部屋へ申通候 　一、以来御休息所并南御入側御囲内ニ而、御目付御用御聴被遊候節ハ御前詰之者大奥御〆切中之通御次へ下り居可申事 　但、御錠口へ御人払札差出候ニ不及
114	福井	10.19	□城下巡り、高知席家臣2人の下屋敷庭を御覧	御城下御廻り被遊(中略)、夫ゟ三ツ橋口本多筑後［元家老］下屋敷・稲葉敬次郎［高知席］下屋敷江御差掛り被為入、門内庭口迄之所鳥渡御覧被遊〈尤両屋敷共｜締切有之〉
115	福井	12.13	煤払いのため大奥御座間に入られる	御煤払之処、当年御中陰中且御痛所も有之御鷹野等之御出殿無之ニ付、朝御膳後大奥御座之間**表御〆切**ニ而被為入、御居間御掃除相済御二度御膳前表へ被為入
116	福井	12.28	歳暮祝儀、大奥年寄歌島へ目録下さる	五半時御供揃御本丸へ被為移一統之御礼被為受（中略）、相済御帰殿之上於御居間御側御用人・御用人〈脱剣｜〉一統罷出御参観、御時節被仰出候ニ付恐悦申上（中略）、畢而**表御〆切**ニ相成 　　金五百疋　　御年寄　歌島方 　右例之通御手目録ニ而被下之、御側御用人取計
117	福井	1845(弘化2) 1.6	□発熱のため終日入床	終日御床ニ被為入御寒熱御覚被遊候、大奥御拝御流御入代り御〆切有之
118	福井	1.8	比丘尼1人に面会	鼻紙壱束・御盃　壱　　円寿院へ 　右年頭罷出候ニ付、**表御〆切**御目見被仰付、右大奥取扱被下之
119	福井	2.24	□菩提所住持招待、格別省略	寺方御招有之（中略）右御細工物被下候儀、御先例ハ御〆切ニ相成、大奥取計被下筈之処、当年者御料理等格別御省略ニ付御〆切之御馳走無之
120	福井	3.13	□灸治御初兼御納式、匙医師・奥医師に煙草入れ等下さる	御灸治御初御納御兼帯之御式計有之（中略）今日御〆切ニ而御医師惣名代として当番御匙いし細井玄篤・同奥御いし馬渕玄竜罷出、右御品物御匙医之分ハ玄篤江、奥御いし之分ハ玄竜江一所ニ御手自被下之
121	江戸	12.28	□歳暮祝儀、大奥年寄3人へ目録下さる	御年寄三人へ 　右御居間御〆切、御側御用人出席例年之通被下之
122	江戸	1846(弘化3) 1.1	□大奥にて三献の陰祝（～1.3）	今朝御出殿後、御居間御〆切ニ相成、大奥ニ而御例之通三献之御蔭祝差上之由
123	江戸	1.2	□大奥にて三献の陰祝、縫物初の祝儀	今朝諸御礼之間ニ御居間御〆切、大奥ニ而昨日之通り三献之御蔭祝可有之処、御小休被為入候御程合も有之、大奥ニ而も御年寄中御城初へ御使等ニ被出帰り之都合も有之ニ付、旧冬磯岡方申談大奥ニ都合次第御錠口外廊下之処暫大奥御〆切ニいたし此所ニ而、三献御蔭祝差上候事（中略） 一、御三度御膳之節、御縫物初之御祝儀、御吸物・御酒御〆切御祝被遊
124	江戸	1.3	□大奥にて三献御祝	今朝御居間御〆切中大奥ニ而三献御祝差上候由
125	江戸	1.5	□謹姫からの女使に面会（年頭）	謹姫様ゟ年頭之女使被進之、御帰殿之儘御〆切御逢被遊候
126	江戸	1.8	□比丘尼衆に面会（年頭）	御比丘尼衆不残、御例之通年頭ニ付被罷出、今朝御〆切中御目見有之由
127	江戸	1.8	□節分祝儀	一、節分ニ付御福茶御豆御吸物御酒等御三度前御祝物并御二度之御祝御膳、今日御精日ニ付御三度ニ差上之、何も御例刻之御〆切中大奥ニ而御祝被遊候 一、右同断ニ付七半時揃御嘉例之通豆被下之御式有之（中略）、相済御居間へ被為入御〆切被仰出、大奥女中罷出御例之通御式有之由、
128	江戸	1.14	□福茶祝儀	御三度御〆切前御福茶表ニ而御祝被遊、御小姓壱人のしめ着差上之
129	江戸	2.16	□松栄院附女中に面会	暮時前御住居ゟ染村殿、御内御用ニ而被罷出候由、御三度御膳御〆切中ニ付直々御逢被遊

130	江戸	3.13	□謹姫からの女使に面会（見舞）	謹姫様ゟ　鮭　二包・御生菓子一重 右為折柄之御見廻［慶永、感冒］、老女花井被差出候ニ付被進之、御居間御〆切御逢有之、例之通御袴被為召候
131	江戸	3.22	大奥年寄任免	眼病ニ付内願之上御城勤御免　　御年寄　八十瀬方 御年寄被仰付并御城勤被仰付候　　表使格御右筆　室多 右ニ付**表御〆切**之節室多方御礼御目録被差上、御手のし被下候由
132	江戸	4.28	□江戸発駕（参勤交代）	一、六半時御供揃差出之御用人ゟ申上有之、同刻御綿服ニ御上下被為召御〆切ニ相成大奥女中御目見、畢而御拝御平生之通有之、此節謹姫様御使并貞照院様ゟ御歓之者へ御逢有之由 一、直ニ御旅服御綿服桟留御袴御野羽織被為召、再御〆切大奥女中御暇乞御目見有之

注1）「少傅日録抄」松平文庫、A0143-01106～01111による。
2）表〆切と明示されていないものには、□を付した。
3）〈 〉内は割書で、｜は改行を表す。